

Q11b DSSに基づく暗黒星雲アトラスおよびカタログのデータベース化

櫻井冬子、土橋一仁、海田正大、西浦慎悟（東京学芸大学）、上原隼（桐朋高校）、梅本智文（国立天文台）

1998年以降、我々東京学芸大学の研究グループでは、光学写真のデータベースである Digitized Sky Survey I (DSS) を利用した暗黒星雲の広域探査に取り組んできた。これまでの研究により、我々は全天空で 5289 個の暗黒星雲を検出した。個々の暗黒星雲について天空での座標、広がり、および減光量を測定し、記録した。また、検出した暗黒星雲のうち、既に発見・命名されている既知の暗黒星雲を過去の文献より調査し、その結果を対応表にまとめた。さらに、各々の暗黒星雲の詳細かつ定量的なアトラス (A_V マップ) も作成した。一連の研究成果を暗黒星雲のアトラスおよびカタログとしてまとめ、日本天文学会の欧文研究報告 (PASJ) で発表する予定である (Dobashi et al. 2005, in press)。

我々は、研究の第2段階として、これまでの研究成果を十分に有効活用するために、以下のデータをオンラインで公開することを計画する。インターネット上で、検索したい領域の座標または天体名等を入力するとデータを検索・利用出来るシステムを構築中である。

5289 個の暗黒星雲の (1) 座標、(2) 広がり、(3) 減光量、(4) 文献 (既知の暗黒星雲の場合) を記録したリスト (テキストデータ)

個々の暗黒星雲の減光量マップ (バイナリーデータ)

このポスターでは、平成 17 年 8 月の運用開始に向けて取り組んでいる、データ検索システムの計画および進捗状況について報告する。暗黒星雲の定量的なデータベースとして、広く活用されることを望む。